

鳥獣被害から集落を守りましょう！

モデル集落
募集中！

～モデル集落に向けて～ 集落対策の手順書

1 モデル集落の目的

市町村や県、地域住民等が一体となって、「集落ぐるみの鳥獣被害対策」に取り組むことで、**農業の維持**や**集落を盛り上げる**とともに、成功事例として、**他の集落への波及**を図ります。



2 モデル集落になるメリット

① 鳥獣被害対策支援センターを始め、関係機関が全面的にサポート！

・・・現地点検や勉強会などに一緒に参加し、講師としてお話しします。

② 活用事業の提案！

・・・対策内容に応じ、活用できる事業を一緒に検討します。



勉強会



実証展示ほ

3 活動の流れ

下記（１）～（６）の**PDCAサイクル**で取組を進めていきましょう。
なお、様式は必要に応じてお使いください。

(1)被害報告、
対策内容の現地確認

(2)被害状況の可視化

(3)勉強会、現地点検

Plan
計画

Do
実行

(4)被害対策の実行

(6)改善策の検討

Action
改善

Check
確認

(5)評価・効果検証

詳細は次ページへ

(1) 被害報告、対策内容の現地確認

まずは、『集落点検聞き取り調査票』で集落の代表者から聞き取りを行います。その後、『集落点検野帳』を用いて被害状況及び対策内容について調査をします。
このとき、モデル集落として組織的な活動ができるか、確認しましょう。

①集落点検聞き取り調査票

②集落点検野帳



現地確認

(2) 被害状況の可視化

侵入経路や集落の課題を可視化するのに、センサーカメラは非常に有効です。
センサーカメラについては、鳥獣被害対策支援センターでも貸出しは可能なので、お問合せください。
また、(1)で聞き取りした被害状況や対策内容を『地図(例)』に記入しましょう。白地図の利用方法は別紙【ひなたGIS活用例】を参考にしてください。

③地図(例)

ひなたGIS活用例



マッピング

(3) 勉強会、現地点検

多くの住民に鳥獣被害対策への理解を得るためにも、勉強会や現地点検は必要です。

まず、(2)で作成した地図を元に、住民に課題を説明しましょう。必要に応じ、鳥獣被害対策支援センターが講師をします。(関係機関で分担)

その後、現地点検をし、最後に班に分かれ『課題・対策シート』を作成、住民自ら発表します。

自ら発表することで当事者意識が芽生え、説得ではなく、『納得』します。

④課題・対策シート



勉強会

(4) 被害対策の実行

(3) で出た対策内容について集約します。このとき、関係機関は利用できる事業について、提案しましょう。実際は、いきなりこの事業導入から初めてしまうので、住民の当事者意識が芽生えず、失敗することが多いです。

その後、今後の活動内容を『活動計画表』にまとめ、地域で実施しましょう。

⑤活動計画表



(5) 評価・効果検証

実施した対策の効果を確認します。

このとき、1年目の被害に対して、2年目がどのように変化したのか、検証しましょう。(同時期に調査すると検証しやすいです。)

(6) 改善策の検討

短期間で効果が出るのは、少ないです。

(5) の課題を踏まえて、改善をします。

2年目からが本番のつもりで、取り組みましょう。